

【学校名】美唄市立峰延小学校
【活動の名称】 ピア・サポート授業
【活用した資源】ピア・サポート各種研修資料
【対象学年と活動の時期】第3～6学年

(項目アー観点①居場所づくり)

【活動の概要】
・ピア・サポートプログラムを通じて、児童の対人関係スキルを磨き、仲間づくりを促進する。

【ねらい】
・子どもたちが互いに思いやり・助け合い・支え合う人間関係を育む。
・思いやりのある学校風土づくりへとつながるようにする。

【活動の流れ】

学年	3年	4年	5年	6年
	友だちと仲よく生活するために、相手の意見や気持ちをきちんと聞いたり、相手のことを考えたりしながら行動する。		友だちと良い人間関係を作るために、相手の考えに耳を傾けたり、相手の立場にたつてものごとを考えたりする。下級生の手本として行動する。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション 『かがみになろう』 アンガーマネジメント 『おこるとどうなる?』 ソーシャル・スキル 『とげとげマンとにっこりちゃん』 	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解 『エゴグラム①』 集団生活の向上 『プラスのストローク』 アンガーマネジメント 『心の温度計』 コミュニケーション 『大切なものランキング』 コミュニケーション 『対話の位置関係』 コミュニケーション 『上手なきき方』 	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解 『エゴグラム②』 集団生活の向上 『問題の解決①』 集団生活の向上 『問題の解決②』 集団生活の向上 『上手にことわる』 コミュニケーション 『伝えるときに大切なこと』 コミュニケーション 『温かい言葉がけ』 	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解 『エゴグラム③』 自己理解 『自分を知ろう』 集団生活の向上 『上手なことわり方』 コミュニケーション 『気持ちの伝え方を考えよう』 コミュニケーション 『上手に考えを伝えよう』 コミュニケーション 『会話のテクニク』



【工夫したワークシート】

【ポイント①】
ピア・サポートプログラムを実践する際は、ワークシートを活用し、児童の考えや発想を引き出すことができるように工夫しました。



【話を聞くときに大切なこと】

【ポイント②】
第4学年以上のプログラムには、コミュニケーション能力を育むための時間を多く設定しました。
学んだことを生かして、生活で活用するよう促し、思いやりのある学校風土づくりを行いました。

【本活動における成果等（留意点含む）】
・自分との違いを認めたり、お互いのよさを見つけ、ほめ合ったりする活動を意図的に設定することで、言動が変わり、思いやりのある温かい学級風土が醸成できてきた。
・自分に対して肯定的であることや自分を認めてくれるという安心感が、他者への関心を抱き、思いやりをもって接しよう、誰かの力になろうという気持ちを育む。指導者は、児童が肯定的なフィードバックを受ける機会を多く設定することが大切である。

【学校名】美唄市立峰延小学校
【活動の名称】 児童集会（前期・後期）
【活用した資源】全校児童・保護者・教職員
【対象学年と活動の時期】全校

（項目アー観点②絆づくり）

【活動の概要】

- 児童会書記局が中心となり、縦割り班でアイデアを出し合いながら、主体的な活動を行う。
- 異学年の児童と一緒に活動することで思いやりの心や、仲間意識を育む活動を行う。

【ねらい】

- 異学年で一緒に活動することを通して、協力する態度や思いやりの心を育てる。
- それぞれの学年の発達段階に応じた役割を果たすことで達成感を味わわせるようにする。

【活動の流れ】

○児童会書記局が中心となり、企画・運営をする。

前期児童集会

後期児童集会


2016年度 前期全校集会

2016. 6. 9 豊かな心育成6（児童会）

- 集会名 『お祭り集会』
- ねらい
 - 異学年と一緒に活動することにより思いやりの心、達成感、仲間意識をもちせる。
 - ＜児童の目標＞ ①みんなで工夫し、協力し合って楽しいお祭り集会にしよう。
 - ②ルールを守って、みんなが楽しいお祭り集会にしよう。
- 日時

9月1日（木）2～3時間目（9：30～11：20）
- 内容
 - ①「縦割り班」で店を出す。（ゲーム屋さんなど、業種がなくても楽しめるお店を企画する。）
 - ②「縦割り班」で、店番を前半と後半に分ける。
 - ③店番が前半の子の時、後半の子が他の班へ遊びに行く。
 - ④店番が後半の子の時は、前半の子が遊びに行く。（当日、書記局が放送で知らせる。）
 - ⑤場所については、基本的に体育館とするが、必要であれば、教室・特別教室にしてもよい。（場所については、各お店で希望が決まったら、リーダーに集まってもらい、調整する。）
- 日程

9：30～	店の準備（各教室等）	①開式の言葉
9：45～	開会式（体育館）	②児童会長の話
10：00～	開店（店番は前半の児童）	③ルールの発表（書記局より）
10：45	前半後半交代	④店の宣伝（お店代表 数各ずつ）
10：50～	店番の交代（店番は後半の児童）	⑤開式の言葉
11：35～	閉会式（体育館）	⑥学校の話
11：50～12：10	後片付け	⑦各学年代表の感想（各学年代表1名ずつ）
		⑧閉式の言葉
- その他
 - 児童会書記局から「お祭りカード」が出ます。児童は、それを持って各店に行きますが、各店で受付を設け、来店スタンプ（または、チェック）をするよう指導願います。
 - 児童へは、一つの店にかたよらないで、全ての店をまわるよう事前指導をお願いします。
 - 開会式時に各店の宣伝をする子（それぞれの店）を決め、準備しておいてください。
 - 閉会式で集会の感想を発表する子（各学年）を事前に各学年1名ずつ決めておいてください。（氏名報告を7月17日（金）担当（集中）まで）
 - 後片付け時には、ゴミの分別に注意願います。
 - 先生方で店を出したい方は、無理のないような形で、集中までお知らせ下さい。
 - 一般客への呼びかけを行う。（保護者、併席所、懇話会、老人クラブ）



【縦割りによる活動】

【ポイント①】

児童同士が主体的に仲間意識を育むことができるよう、異学年で一緒に活動する機会を設定しました。

2016年度 後期全校集会について

2016. 10. 28. 豊かな心を育てる6（児童会）

- ねらい


積極的に「学校生活を楽しくしよう」とする心構えを養うとともに、峰延小学校の一員であるという連帯性を持たせ、全校児童の交流を深める。
- 日時

11月1日（火）3・4時間目（一日参観日）
- 場所

体育館
- 内容
 - ※グループ対抗で行います。
 - ①お絵描きリレー（店番ゲームのお絵描き班）※全2回
 - ②王様ドッジボール（言わずと知れた王様ドッジ。一試合4分、総当たりで行います）
 - ③障害物リレー（障害物のコースを、リレー形式で大玉を転がすタイムアタック）
 - ④謎解きウォークラリー（謎の校舎を歩き回り、謎を解いていきます）
- 日程

10：35	開会式
10：40	集会スタート
	ゲーム① お絵描きリレー～説明
	練習
10：45	【お絵描きリレー】スタート～6分ずつ×2回
	～得点記録
11：00	ゲーム② 王様ドッジボール～説明
11：05	【王様ドッジボール】スタート～4分ずつ×3試合
	～得点記録
	A対B / A対C / B対C
【11：20	トイレ休憩み休憩】
11：25	ゲーム③ 障害物競走～説明
11：30	【障害物競走】スタート
	～得点記録
	1位… 2位… 3位…
11：45	ゲーム④ 謎解きウォークラリー～説明
11：50	【謎解きウォークラリー】スタート ※1分ずつ時間差で出発（6組）
	～得点記録 Aチーム… Bチーム… Cチーム…
12：05	閉会式

お祝い！ウォークラリーでは、児童会役員がヒント要員としてそれぞれの部屋におりますが、先生方も是非子どもと一緒に一緒に取り組んでください！全チーム正解を目指しています。※図書室で取戻す際は、「図書室の中」ですので、ひっかからないようにしてください！



【当日の交流の様子】

【ポイント②】

より一層、互いが協力し交流できるような活動を工夫するため、これまでの取組を児童会書記局が振り返って企画しました。

【本活動における成果等（留意点含む）】

- 事前の話合い活動、準備から反省まで、異学年児童による活動を行ったことで上級生は下級生に優しく接することができ、下級生は自分でできることを頑張ろうとする姿が多くみられた。
- 年間を通じて縦割りの活動を意図的・計画的に行っていくことで、ねらいに迫る活動ができ、全校児童の絆を深めることができた。

【学校名】美唄市立峰延小学校
【活動の名称】 やきいも体験会
【活用した資源】全校児童・PTA・峰っ子ランド・学校園・ 保育園児
【対象学年と活動の時期】全学年 10月末～11月初め

(項目ウー観点②絆づくり)

【活動の概要】

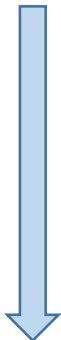
- ・学校園で育てたサツマイモと、学校の宝である「峰っ子ランド」の落ち葉を使ってやきいも体験会を行う。
- ・PTAの協力も得て、親子で落ち葉拾いを実施し、自分たちの手で環境整備に取り組む。

【ねらい】

- ・自分たちで栽培活動を行うことにより、食の大切さを知る。
- ・自分たちの身の回りにある自然に触れ、環境整備に力を合わせて取り組む。

【活動の流れ】

○学校園の整備



【サツマイモ畑づくりと苗の定植】

○PTAとの落ち葉拾い作業



【PTA活動と連携した取組】

○やきいも体験



【やきいもづくりとやきいもを食べる児童】

【ポイント①】
児童同士の絆が自然に深まるよう、畑づくりやサツマイモ栽培に協力して取り組み、全員で一つのことを成し遂げる経験ができる活動を位置付けました。

【ポイント②】
「やきいも体験会」当日に向けて、PTA活動の「落ち葉拾い」を行い、地域や保護者の方とふれ合える場を設定しました。

【ポイント③】
当日は、これまでのサツマイモ栽培を通して得られた経験を児童同士で話し合うことを通して、多くの方々に感謝する気持ちをもつことができました。

■■ 当時の児童の感想 ■■

やきいももおいしかったけど、みんなで畑づくりをしたり、おちばひろいをしたりしたことが思い出になりました。

【本活動における成果等（留意点含む）】

- ・畑おこしの段階から「やきいも体験会」という見通しを子供たちに示すことで、水やりなどの世話も一生懸命に行っていた。また、落ち葉拾いも保護者と一緒に取り組むことで、楽しんで取り組んでいた。
- ・「やきいも体験会」当日は、焼き上がりまでの時間を有効的に使うため、畑の片付けを行い、1年間の栽培活動の締めくくりとした。

【学校名】江別市立野幌若葉小学校
【活動の名称】 ふれあい集会
【活用した資源】児童会活動
【対象学年と活動の時期】全学年 6月・11月

(項目ア—観点②絆づくり)

【活動の概要】
・児童会生活委員会が中心となり、異学年が仲良く交流する活動を通して、いじめについて考える。

【ねらい】
・みんなが楽しく学校生活を送るために気を付けたらよいことを考え、実行しようとする態度を育成する。
・いじめをしない、許さない態度を育成し、児童相互の望ましい人間関係を築く。

【活動の流れ】
 <事前>
 ①生活委員会が中心となり、集会の計画を立てる。
 ②委員会だよりや昼の放送で、集会のねらいや学級での取組などを周知する。
 (学級での取組)・学級でいじめ防止のために取り組んでいることを発表する。
 ・いじめ防止標語をつくる。
 <当日>
 ①(前期)委員会の児童による読み聞かせを行い、感想を書き、交流する。
 (後期)委員会の児童が、日常生活の中でありそうな「いじめにつながりかねない行動」を劇にして演じる。全校児童は、「なぜいけないのか」「どう行動すればいいのか」を様々な立場に立って考える。
 ②「全校のいじめ防止の合い言葉」や「いじめ標語代表作品」を聞き、いじめについて考える。
 ③全校ゲームを通して、全校児童が楽しく触れ合い、児童相互の人間関係を深める。
 ④全校合唱を通して、全校で「いじめを許さない」目的意識を高め、実践する態度を養う。

【当日のプログラム(前期)】
 ①生活副委員長の話
 ②読み聞かせ「わたしのせいじゃない」
 ③感想カードの記述、発表
 ④生活委員長の話
 ⑤今年のスローガン発表
 ⑥ゲーム「カードじゃんけん」
 ⑦全校合唱「音楽のおくりもの」
 ⑧校長先生の話
 (各学級でふりかえり)

【当日のプログラム(後期)】
 ①生活委員長の話
 ②生活委員会から
 ・「いじめ防止標語」～各学年の発表
 ・「いじめに関わる発表」
 ③ゲーム「じゃんけん列車」
 ④校長先生の話
 ⑤全校合唱「音楽のおくりもの」
 ⑥生活副委員長のあいさつ
 (各学級でふりかえり)

標語代表作品(第二学年)
 かんがえて
 あいての
 たつらばに
 たってみて



スローガン
 【笑顔いっぱい若葉っこ
 「いじめをしない!
 させない!ゆるさない!」】



生活委員の劇
 「こんなときどうする?」



学年代表による
 「いじめ防止標語」の発表

【本活動における成果等(留意点含む)】
 ・委員会の児童が主体的に運営し、全校児童が標語づくりなどの取組を行うことにより、児童一人一人が目的意識をもって集会に参加することができた。
 ・いじめにつながりかねない日常の場面を取り上げ、自分たちの行動を振り返ることにより、未然防止につなげることができた。

【学校名】小樽市立潮見台小学校
【活動の名称】 「いのちの学習」の推進
【活用した資源】学級担任と養護教諭との連携
【対象学年と活動の時期】全学年 6月～2月

(項目エー観点①居場所づくり)

【活動の概要】
・学級担任と養護教諭が連携し、心と体を育み、自他を大切にする「いのちの学習」を実施する。

【ねらい】
・自分や友だちの成長について学ぶことを通して、自分一人のものではない「いのち」の大切さに気付かせる。
・自分の健康について関心をもち、健康に生活する上での課題を見付け解決できるようにする。
・自分と異なる意見を受け入れ、自分の考えをもち、互いに尊重し合いながら学び合う態度を育てる。

【活動の流れ】
① 学級担任と養護教諭が連携し、児童の発達段階に応じた学習のめあてを設定する。

学年	学習名	めあて
1年	きれいなからだ	体をきれいにする大切さを知り、清潔にする態度を育てる。
2年	おへそのひみつ	自分がどのように生まれてきたか、かけがえのない命、自分の存在に気付き、自己肯定感をもたせる。
3年	私の誕生	生命の連続性や一人一人がかけがえのない存在であることに気付かせる。
4年	大人への体と心の変化	体の発育、発達の仕方には個人差や男女差があることを理解させる。
5年	男女の尊重	男女がお互いに相手の立場を理解して、仲良く助け合っていこうとする態度を育てる。
6年	好きになるということ	異性に興味をもちたり、異性と親しくしたいと思ったりする一方で、人にはそれぞれの感じ方や考え方があるので、異性をよく理解することや、尊重することの大切さに気付かせる。

- ② 養護教諭が年間の活動計画を設定し、担任と授業の準備を行う。
③ 全学級で、担任と養護教諭のチームティーチングによる授業を実施する。



〈2年 おへそのひみつ〉



〈3年 私の誕生〉



〈4年 大人への心と体の変化〉

- ④ 児童アンケートやいじめ未然防止アンケートなどから、学習の評価を行う。

<p>児童の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・280日、お母さんのおなかの中におどろいた。 2年生 ・生まれる時の話を聞いて、泣きたくなった。そして、うれしくなった。 2年生 ・10か月間とても重いのに私を産むために苦労していたことに感謝したい。 3年生 ・私を産んでくれてありがとう。この命が大切なことが分かった。お母さんありがとう。 3年生 ・心や体の変化は、恥ずかしいことではなく、喜ばしいことが分かった。 4年生 ・人間が人間を生む、新たな命を生むということはすごいことだと思った。 4年生 	<p>担任の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出産時の保護者の願いや喜びを知ることで、自分の命の尊さを感じ、自分や友だちの命を大切さを学んだ。 2年担任 ・「いのちの学習」を通して、自分の命は自分一人の命ではなく、たくさんの命のおかげで、今の自分が生かされていることを学んだ。 3年担任 ・「新しい命を生む」ことの尊さや男女共存の意味、多くの人に支えられて「生きている」ことを捉える良い機会であった。 4年担任 ・思春期の男女の違いについて理解することで、大人に向けて成長していくことを楽しみに思うようになった。 4年担任
---	---

- ⑤ 評価の結果を受け、次年度の「いのちの学習」のめあてや活動計画を見直す。

【本活動における成果等（留意点含む）】
・自分の体や健康の大切さに気付くとともに、友だちの体や心に目を向け、自分や周りの人を大切にしようとする子どもが増えた。
・参観日等で継続して、いのちの学習を保護者に公開することで、活動の目的（いじめの未然防止）が保護者や地域に周知することができた。